

茅風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2015年9月7日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信 46号



照葉狭・木精の滝

- 5月～8月の活動報告 (事務局)1
- 第1回東京楽習会「スケッチ・オブ・ワンダー」
◇開催報告(稲貴夫)2
- 一般参加歓迎プログラム 2015②
「草原の山菜&ブナ新緑の森」
◇開催報告(草野洋)2
◇参加者レポート(荒川秀子・伊賀三江・飯村孝文)....4
- 一般参加歓迎プログラム 2015③
「草花着花調査と防火帯刈払いに挑戦」
◇開催報告(草野洋)5
◇参加者レポート(藤岡貴司).....6
- 麗澤中学水源の森フィールドワーク
◇実施報告(草野洋)7
- 第2回東京楽習会「水の化学ーおいしい水とは？」
◇開催報告(稲貴夫)9
- 藤原現地報告(北山郁人).....9
- 藤原の“ほっと”ショットコーナー(中村智子)11
- 野守のつぶやき (清水英毅)12

編集後記 (敬称略)

■ 5月～8月の活動報告

【5月】

- 9日 第1回東京楽習会実施。高野史郎会員による「スケッチ・オブ・ワンダー」と題する、植物画を介して植物にまつわる講話を聴く。青水関係16名他、一般公募者など約100名が参加。森林文化協会共催、朝日新聞社後援。
- 22日 「茅風」45号発行
- 23日 柏市にて麗澤中学校樹木観察会。148名の新1年生に自然とのふれあい、気づきの大切さをレクチャー。

【6月】

- 13日、14日 一般参加歓迎プログラム②「草原の山菜とブナ新緑の森」実施。首都圏から13名参加。山菜づくしの料理を堪能し、夜の車座講座で、民宿関ヶ原の芳江おかみから「藤原の山菜とくらしあれこれ」と題したお話を聴く。
- 14日 今年初の県道刈払い奉仕活動を実施
- 27日 全国草原ネットワーク総会が静岡県掛川市で開催、草野塾長出席。

【7月】

- 2日、3日 上ノ原にて麗澤中学校フィールドワークを実施。生徒148名を地元勢13名と首都

圏勢7名にて指導。

- 11日、12日 一般参加歓迎プログラム③「草花着花調査と防火帯刈払いに挑戦」実施。12名参加、防火帯の刈払い完了。車座講座では、西村会員から「上ノ原の植生調査の意義」として、上ノ原の植物紹介を兼ねたレクチャー。
- 12日 県道の刈払い奉仕実施。
- 19日 植物調査実施(プレック社山崎先生帯同)

【8月】

- 22日 第2回東京楽習会開催。「水の化学ーおいしい水とは」と題して、山本会員からお話を伺う。12名参加。

(以上)

◆◆◆◆◆◆◆◆お知らせ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

5月の楽習会で、来場された方に実費で限定販売した高野史郎会員による「グリーン・パワー」連載全百回分を収めた『スケッチ・オブ・ワンダー』は、まだ在庫があります。頒価500円+送料実費負担で頒布しますので、ご希望の方は下記事務局までご連絡ください。

森林塾青水事務局

TEL 047-712-6861 FAX 047-712-6862

jimukyoku@commonf.net

■第1回東京楽習会 「スケッチ・オブ・ワンダー～描くことでわかる 植物の生きざま」開催報告 稲 貴夫

前号の茅風通信(45号)に、5月9日に開催された第1回東京楽習会を終えて、講師を務められた高野史郎会員から寄せられたメッセージを掲載いたしました。本号には、森林文化協会の共催、朝日新聞社の後援のもとに開催した楽習会の概要を掲載いたしますので、前号の高野さんのメッセージと併せてご覧いただければと存じます。(編集子)



本年度最初の東京楽習会は本会の高野史郎会員を講師に、5月9日土曜日の午後、築地の朝日新聞本社・読者ホールで開催しました。

この楽習会は、高野さんが森林文化協会発行の月刊誌『グリーン・パワー』に、植物の特徴を緻密なスケッチに描き、暮らしや文化にも目配りした文章とともに紹介してきた「スケッチ・オブ・ワンダー」が、連載100回を迎えたことを記念して企画されたものです。当日、会場には会員の他、公募による一般参加者など総勢100名の方々が訪れました。また、会場には、高野さんの色彩付きで描かれたスケッチ原画も飾られました。

最初に主催者を代表して草野洋塾長が挨拶、続いて共催いただいた公益財団法人森林文化協会の須藤久士常務理事が挨拶して、高野さんの講演が始まりました。

高野さんのお話を聞いていると、植物に対する造詣の深さと共に、生命がやどり、人生を歩む人間に対する視線と同じ視線で植物を見つめる高野さんの眼差しが伝わってくるようです。楽習会のために準備いただいた資料の冒頭を飾る一文を紹介します。

「花が咲いていると、何の花なのか気になる。図鑑で絵合わせしても、なかなか見つからない。花が咲き終わってしまうと、もう見向きもしなくなる—ということってありませんか？ でもきまっている季節に花を咲かせるためには、植物にとってかなり前からの準備が必要なのは、別の季節の暮らしぶりを調べたい！」

そして、タネができる。どこか、なるべく遠くへ飛ば

したい！

植物のいのちの始まりから、枯れるまでを、時にはじっくり眺めてみよう！」

人を恋したとき、その人のすべてが知りたくなるように、植物に恋してしまった高野さんの想いが伝わってくるようです。高野さんは様々な植物を取り上げながら、その一生を豊かな話題と共に興味深く紹介して下さいました。

休憩をはさんで楽習会は楽しく進められ、最後に来場者からの質疑応答が行われました。最後に、森林塾「青水」及び森林文化協会の活動紹介が行われ、本年度最初の楽習会は無事に終了しました。

■一般参加歓迎プログラム2015② 「草原の山菜&ブナ新緑の森」 開催報告 & 参加者レポート

里山の恵みをお福分け

草野 洋

昨年のプログラムのふり返りで、“山菜など山の恵みを楽しむプログラムが欲しい”との要望を受けて企画したのですが、青水としても初めての試みでした。山菜は種類が豊富で何が食べられて何が食べられないのか、植物や樹木には詳しい会員でもポピュラーなものしかわかりません。誰に指導を仰ぐか悩みましたが「藤原の山菜とその楽しみ方」として上ノ原や藤原にある山菜をお福分けさせともらおうということにしました。

今回、宿泊をお願いした「民宿 関ヶ原」の芳江大女将にお手伝いをお願いしたところ快くお引き受け頂き実現しました。梅雨入りしたにも関わらず好天気の中、参加者は、女性6名、日光茅ポッチの会の飯村さんも参加いただき13名となりました。

1日目は、茅場と木馬道を散策しました。ここでは、ワラビ、トリアシショウマ、オオバギボウシ（ウルイ、ウリッパ）、ミツバアケビ、ウド、クズ、シオデ、ウワバミソウ（ミズ）、クサソテツ、タラノキ、イタドリ、タンポポ、ヨモギ、ヤマユリ、オオウバユリ、ノアザミ、コシアブラ（順不同）など予想通り種類が豊富でした。でも、皆でとるほどではありません。ここでは種類の知識を得ることにしました。

この後、一同はカラマツ林の中へ入り、沢筋に生えたウワバミソウを採取しました。ここでは、全員が一束分



ぐらいをお福分けさせていただき、芳江さんに葉や茎の皮の取り方を教えてもらいお土産としました。

この後スキー場の中もののぞいてみましたが採取するほどではなく、青木沢、師入と集落風景の中をドライブして宿に向かいました。

夕食は、まさに山菜づくしでした(写真右)。新鮮でおいしい料理や珍しい料理が次々と出てきます。そのたびに芳江さんの解説が入り、大満足の楽しい夕食会となりました。



この夜の車座講座は「藤原の山菜とその食べ方」として、芳江さんに語っていただくことにしてありました。その際、採取した山菜や世間で食べられるとされているクズの芽、山ブドウの芽、コシアブラ、キハダの芽、リョウブ、イタドリ、タンポポ、ノアザミの花や葉、などをテンプラにして、おつまみにするつもりでした。しかし、夕食にたくさんの山菜が出され、皆さん満腹状態でこれ以上の食べ物は受け付けられない状態となっていたため取りやめました。

芳江さんに登場いただき車座講座がはじまりました。最初に、昭和33年に18歳で藤原に嫁いでこ



れたころの藤原の様子から語っていただきました。

当時の食生活や暮らしぶり、カイコの飼育をはじめとする農作業

のことなどが次々に披露され、その中に利用した山菜や料理方法などが織り込まれていました。この展開は新鮮で芳江さんの穏やかでも力のある語り口は参加者をひきつけた様で、場は最高に盛り上がり参加者から次々と質問が出てきました。この間、約1時間半、参加者には藤原の自然や風景のほかにも人の素晴らしさを印象付けた車座講座となりました。

2日目は、5時、早起き組10名が早朝の上ノ原茅場で鳥の声を聴きながら朝露の茅場風景を楽しむことから始まりました。

この日のメインは、青水の合言葉である「飲水思源」にふさわしい国有林の奥山利根水源の森林ブナの新緑を散策するプログラムです。

その前に、三菱UFJ環境財団の水源の森に立ち寄り、清水顧問から説明を受けました。

今回の参加者にはもう一つのミッションがあります。それは、塾が参加する群馬クリーン作戦の県道の草刈をしてもらうことです。皆さん、慣れない鎌で取り組んでいただきました。

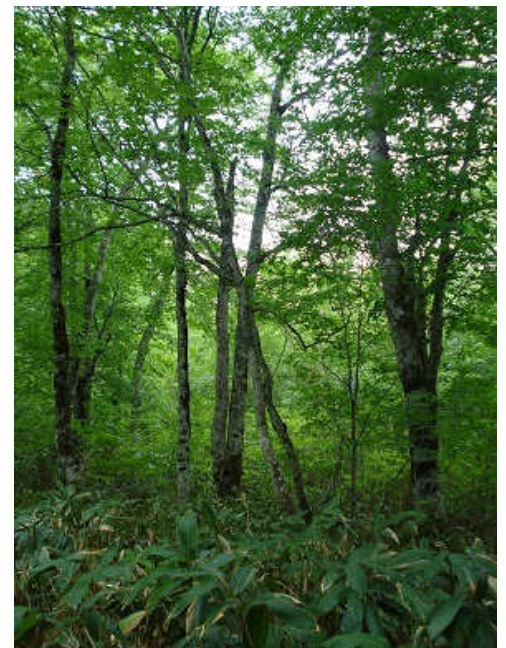


その後、照葉峡で滝や溪谷を見ながら本日のメインである奥山利根水源の森林でブナ林の新緑を楽しみました。コースは周遊道を一周しながら途中でブナの森遊歩道を約1時間ほどブナやダケカンバの中を散策しました。

森にはちょうどオオカメノキやナナカマドの白い花が咲き、ブナには多くの実がついていました。

ここでは、稚樹から巨樹まであるブナ林を見ながら更新の仕組みや択伐について解説しました。

今回は、山川草木悉皆成仏の精神を大切にしながら里山の恵みをお福分けさせていただきました。



参加者は、食糧危機が来てもきっとサバイバルできるはず？

里山の自然から奥山の森林までそして藤原の風景と人を楽しんでいただいたつもりですがいかがでしたでしょうか。

恋する森へ踏み入れて

荒川 秀子

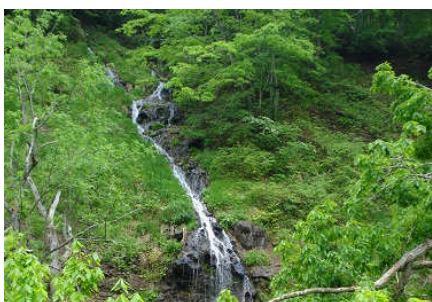
6/13(土)第一日目。東京駅から新幹線で上毛高原駅へ到着しました。皆様と合流、水上町を経て、藤原町、上ノ原地区へと向かい、見渡す限りの草原、緑色が目に沁みます。空気はひんやり、都会ではお目に掛かれない光景、草はイキイキと、タニウツギのピンクの花がそこかしこに咲き乱れ、広々とした草原、何ともいえぬうっとり。さあ、草原で腰を下ろしての昼食です。言わずもがな、おにぎりとお水がマッチした味、ウフフ、素晴らしい！！ここからスタート、木々の間を散策、初めて聴くエゾハルゼミの鳴き声、幹を見るとセミの抜け殻が沢山見えました。珍しい木を眺め、林の中をそぞろ歩く。

ここは野草の宝庫、草を分け入って、野草のご指南役の今夜の宿の女将、芳江さんの後に続き「ミズ」の群生地、嬉しい悲鳴を上げ乍ら夢中で両手に一杯、これは初めての体験、凄い。野草のお料理の仕方も稚拙ながら、芳江さんに、蕨の処理の仕方も教えていただき、徐々に「くずの芽」やら、「蕨」やら、パッと見つける技が身に付いて来ました。雪解けの水の音を聴き、空になったペットボトルへ、“呆れる程冷たい岩清水”を汲み、一気飲み、キャー美味い！！

あつという間に午後の陽が落ち、今夜の宿の民宿「関ヶ原」に向かいました。宿のお庭には綺麗なお花が沢山咲いていて、色とりどり、お花達も「観てよ、観てよ」と、言って居る様に咲いていて、いいね、いいね、こんな色、素敵ね、と、お花に話し掛ける。あまりにも一日中興奮したせいか、軽い疲労感で、夕食迄ぐったり。夕食は山菜料理の数々、一皿ごとにこれは何という山菜？と、質問しながら、いただきました。山菜の天ぷら、‘これは何々です’、と、一つずつ、一人一人に揚げたてを、お皿の上に置いて下さって、わー美味しい、わー凄い。夕食後のミーティングは博識高い方々のお話で盛り上がり、自然界の貴重な講義、大変勉強になりました。夜もふけ、一日目が終わりました。

6/14(日)第二日目。朝、雷と雨の音で目が覚めた。凄い大雨。今日はブナの森を歩く予定なのにこんな凄い雨、残念だわー。と、少々気落ちして、私、晴れ女なのに……と、ぶつぶつ独り言。しかし、出発して間もなく雨はやみ、車がどンドン山の中を走って行くと陽が射して来た。

わーい、晴れたー！！ここは群馬県の山奥、“照葉峡”、左右には深い森、右側には雪解け水がごうごうと流れる峡谷滝の素晴らしい景色、ときどき車をストップ、



滝を眺めて、ミズナラ林、唐松林、こんな山奥迄、来た〜っ。そして木の傍らに生えている笹を、皆で鎌を持ち、私は慣れない手つきで、笹を

切り除きました。辺りは美しいスペースに変わり、またもや、うっとり眺めました。森の手入れは大変な仕事ですね。この森が雪に覆われるその寸前に、落ち葉が一面に分厚く敷き詰められ、雪が積もり、長い冬を越え、春に落ち葉で濾過した雪解け水が谷川を流れ、ダムを経て都会の私たちの水瓶を満たしてくれているんだ。有難い森、ブナの森、ブナの大木は堂々と天に向かって枝を伸ばし葉を広げ、見上げると何とも言えない力強さ。私達人間は毎日を森の恩恵にあずかりながら生きる。今、私はオゾンを一呼吸吸いながらブナの森を歩く、ウーむ、力強さもいただいて、もっと、もっと、感謝をせねば。だけど木は凄い。1000年も、それよりも更に長く生きるんだもの。落ち葉が重なった道を踏みしめ、足元でこの柔らかい感触を味わい、そんな思いを巡らせながら森を後にした。自然と共存と言いますが、自然を破壊するのも人間、大切なのは感謝だわ。

ああ、緑の森は美しかった。この様な、緑豊かな森に感謝して、森に恋して、又木々に会いに来ようっ。

感動的な水上の森

伊賀 三江

6月14日は、私にしては久しぶりによく活動した日になった。早朝、塾長の車に乗り込んで、皆で上の原の朝を見に出かけた。西村さんが一足先に一人で出かけており、伐採林の上の方で熊らしいものに出会ったらしいという話に一同騒然となる。

朝食後に行った森は、奈良俣ダムに近い三菱UFJ環境財団「水源の森」。清水顧問の案内で森へ入ったが、すぐに「なんと上の原とは違う森！」が



正直な感想だった。上の原の森はどちらかと言えば乾いた森だが、この森にはクジャクシダを始め何種類ものシダがあり、林床に生える樹種も上の原よりよほど多様な森だ。「いい森へ来たなあ」と感動していたが、午後に訪れた「奥利根水源の森林」がまた一段と素晴らしかった。行く前から「白神山地のブナ林にも勝るブナ林」というふれこみであり、皆、半信半疑でくそんな筈があるわけがない>と思って行ったが、ウソではなかった。歩くにつれて二抱えもありそうなブナの巨木が、純林状態で現れた。規模はさほど広くはなさそうだが、風格と言う点では確かに白神山地のブナ林に引けを取らない。ブナは旦那木である。山腹のもっとも条件の良い位置を占めて「我こそ森の王なり」といった風情で立っていてこそ、ブナである。このブナは残ったのか、残したのか、と元営林署長の塾長に聞いたら「当時は択伐していたから残った、が正しいかな」が返事であった。なるほど、水上営林署の怠慢(いえ、冗談、冗談)が残した森なのかと、その行為に感謝する。

かつて乳頭温泉のブナ林へ行ったら、すべて若木で細かった。がっかりして「なんと若いブナ林」と言ったら、土地の人が「昔、宮沢賢治がブナ酢をつくると言うので、すべて切り払った。今のブナ林はその後のものだ」といった。その話を塾長にしたら、即座に「そうか。乳頭温泉では立派に更新したんだ」と応じた。まことに営林署的の反応であり、森の見方をまた一つ教わった。

**豊富な山菜とタニウツギの鮮やかさが彩る
初夏の上ノ原 飯村 孝文**

自宅のある日光から上ノ原へのルートはいつも金精峠を越え、坤六峠を經由していきます。峠付近にさしかかるとまだ残雪があり、ちょうどムラサキヤシオツツジが満開でタニウツギも咲き始めでした(写真右)。いずれも日光ではお目にかかれない植物なのでじっくりと観察します。そして残雪をクーラーボックスに入れ今宵の楽しみのために一升瓶を冷やします。



昨年7月、10月と上ノ原入会の森を歩き、今回は初夏の上ノ原を初めて経験しました。



新緑の上ノ原はタニウツギの花が真っ盛りでした。日光では見られないタニウツギの花は上ノ原の草原に艶やかな彩りを添えていました。集合時間までの間、昨年、西村さんに教えていただいたスズサイコ(写真左)を探します。良く見るとあちらこちらで見つかりいずれの株も蕾をたくさんつけ

7月の開花を待っていました。羽化したばかりのギンイチモンジセセリ(写真右)やヒメシジミ(写真右下)が弱々しく草原を飛び回ります。いずれも国準絶滅危惧、群馬県絶滅危惧I類の草原性の生き物です。草原が生きているのを感じます。



草野会長の山菜レクチャーを受け、山菜観察しながら草原を散策します。そして森の縁で「山のア



スパラ」と呼ばれるシオデを初めて見る事ができました(写真右)。その新芽はアスパラガスそっくりです。手入れの行き届いたカラマツ林の下草には立派なミズナ(ウワバミソウ)が無数に生育しています。全員でミズナ狩りに没頭します。



山菜料理満載の夕飯後、民宿の女将さんによる山菜談義は楽しく奥の深いものでした。自然と共にあった山里の暮らしの苦勞が偲ばれました。坤六の残雪で冷やした酒が進みます。

2日目に歩いた「水源の森」はブナの鮮やかな新緑と雪融けの清流が陽に輝き、ブナ林を深く覆うチシマザサには小さなタケノコが生え、沢沿いにはサンリンソウの清楚な花が咲きます。ブナ林の豊かさを感じます。

雪深い地の自然の恵みと初夏を満喫した二日間でした。

**■一般参加歓迎プログラム 2015③
「草花着花調査と防火帯刈払いに挑戦」
開催報告 & 参加者レポート**

炎天下の作業 ミッション終了 草野 洋

7月の定例活動は11日12日に梅雨明けを思わせる高温・炎天下で行われました。今回の作業は、動力刈払機による防火帯の刈払いと草原の草花の個体数と着花数調査に挑戦するプログラムでした。昨年同様、一般参加者にも刈り払い機を使う作業をしてもらっていますが、今年も初体験2名を含め6人で汗だくとなりながらの刈払いとなりました。

午後1時、刈り払い機の特徴と安全作業について開始前のミーティングを念入りに行ってから作業開始です。昨年の経験者にはもう慣れたもので機械を使う姿が様になっています。初体験者は最初こそオッカナビックリでしたが、30分もするとコツもつかめたようで斜面がみるみる刈り取られていきます。カラマツ林に隣接している西側の防火帯は、傾斜も緩やかなところですが、今年で4年目の刈払となり、植生もススキが衰退し、払い時期も少し早いので草丈も短く柔らかく演習の場として最適です。大汗をかきながら約1時間でこの斜面は終了しました。

次の刈払い場所は、北側のミズナラ林に接し灌木や、切株、つるが多いためやや難儀なところですが、ここでは、ベテラン組が山側を刈払い、



時間をおいて横一列に刈りはらっていく方法を取りました。カエデ、タニウツギ、ヤマウルシにヤマブドウなどからなる植生に、刈刃が絡まり、傾斜はきつく転石もあって能率が上がりません。毎年ここで見かけるヤマユリが今年は見当たりませんでした。約2時間の作業で終わらず、三分の一を残し、本日の作業は午後4時過ぎに終了です。

前日の残りとし郎太沢の防火帯は、2日目に二手に分かれて行ったところ涼しい時間帯であったこともあり、約1時間で終了しました。し郎太沢沿いの防火帯にはシオデがかなり生育しており、来年の山菜取りのために刈り残しておきました。草原を眺めると、刈払い跡が周り



ときれいに区別され、作業成果が一目瞭然、今年の参加者も達成感を実感していました。

今年の防火帯刈払いは6台の機械がフル稼働し、炎天下にもかかわらず皆さん頑張ってください、定例活動の中でミッション終了です。おかげで平日の臨時活動は不要になり助かりました。

この日の宿泊は湯ノ小屋温泉の照葉荘です。大汗をかいた後の温泉は爽快でした。

夕食後、西村会員の車座講座「上ノ原の植生調査の意義」が行われ、植生着花調査の意義や上ノ原の草花の紹介とともに植生調査により上ノ原の植生の生育の特徴が見えればどのように管理するかも見えてくるなどの貴重な示唆があり、参加者にわかりやすい講座となりました。

この夜は、8時過ぎに前を流れる湯ノ小屋川の蛍の鑑賞のおまけつき、幻想的な灯が疲れた体を癒してくれました。

2日目は、皆さん5時に早起きして、三菱UFJ環境財団の水源の森林で探鳥会を行い、朝飯前の仕事として県道の草刈りもやっていただき、早朝のならまた湖を訪れて宿に帰りました。早起きは清々しく、山並みに朝日が当たって輝く様子は太陽の光を待っていた自然の歓喜が聞こえるようで「希望」が湧いてくるような感覚になり、早起きは三文どころか値千金でした。



早起きは三文どころか値千金でした。

着花調査報告(西村 大志)

着花数調査では、今年は少し季節が遅く花が咲いていないものも多かったのですが、花にこだわらず識別しやすい植物(ノアザミ、ワラビ等)を調べることにしました。調査員4人で、事前に作っておいた6つの調査枠のうち、今年野焼きをしたところとしていないところを2つずつ、合計4つの枠で調査を行いました。暑い中で、茂ってきた草原の中に分け入っての作業でしたが、普段外からぼんやり見ているだけではわからない、草原での植物の生育状況をそれぞれ感じられたようでした。

調査結果は、厳密なものではありませんが、次の通りです。花の咲く植物については、今年野焼きをしたところにやや多かった植物もありましたが、地点ごとのばらつきも大きかったです。ただ、今年野焼きをしていないところのうち、スキの枯れ茎が分厚く積もっていたほうの調査枠では、明らかに種類、花数ともに少ないようでした。わかりやすい結果として出たのはワラビの個体数で、野焼きをした調査枠ではしていない調査枠の約3倍の個体数が確認されました。(以上西村記)



今回の活動には、埼玉から藤原に移住を希望しているNさんも一日体験として着花調査や散策をしてもらいました。ぜひとも仲間にしたい好青年でした。Nさんのほかにも移住希望者の見学が2組、藤原に若者が増える予感がします。

北山さんがんばれ！！

森林塾 刈払いについて

藤岡 貴司

森林塾 青水に初めて参加したのは、丁度1年前防火帯刈払い侵入木除伐作業でした。

みなかみ町「上ノ原」でいったい何が行われているのか？何も解らず、教えて頂いた刈払い機を振り汗を流す。動きは覚束無くついたあだ名は「慎重派の夫」、方や妻は「大胆カリジョ」。悔しい思いが残り、今回こそ戦力になるべく意気込み満々でやってきました。

前日までの涼しい気候から一転、関東一帯、最高気温 30° 超えの猛暑への突入。意気込みに体がついて行けるかどうか不安でしたが、しかし体は覚えていました。忘れていませんでした、慎重に刈りました。

作業中、私にも役割が付きまして。背負い式刈払い機を使う2人のエンジン掛け係です・・・2人の間を適度な距離を保ちながら刈り進みます。常に気にかけて居るので、周りを見る癖が付きまして。慎重派の名に恥じぬ動きが出来ている?! 自分を買って被って気持ちを高め

暑さに対抗してみました。

今年は一週早かったためか、刈りやすく、昨年にはなかった湧水場の上方も行くことが出来ました。このエリアは、低木やツルが多く刈るのに難儀エリアへ入って行きます。その時、カモシカが、川端さんと妻の間を駆け抜けたそうです。うらやましい。残念ながら私は気がつきませんでした。

夕食後の車座講座では、西村さんが上の原の草花について説明してくださいましたが私の知識は乏しい。今まで興味を持ってこなかった罰です。多分すぐに忘れてしまう、でも、体を動かす事は好きです。一つの動作を淡々で行うことに高騰感を持ちました。

美味しい水、涼しい風、ゆれる草、森の踏み心地を味わえる上ノ原を訪れる事はいつも楽しいです。これから1つ1つ知識を身に付けたいと思います。手始めに間伐材から桜の丸太を識別出来るようにと妻からの課題を突きつけられた今回の体験でした。

■自分(ゆめ)プロジェクトのお手伝い 「麗澤中学一年生 奥利根水源の森フィールドワーク」実施報告 草野 洋

7月3日、廣池学園麗澤中一年生の奥利根水源の森林フィールドワーク(以下FW)を実施しました。

このFWは、自分(ゆめ)プロジェクト(後述)の学習プログラムとして、5月にキャンパス内で行う樹木観察会とともに学校の依頼により当塾がお手伝いしているものです。今年の一年生は4クラス8グループ148人、生徒たちは、前日2日に藤原ダムで首都圏の水がめである奥利根地域にあるダムの役割や水没した集落などの話を地元の林親男さんから聞いた後、宿泊し2日目の上ノ原・森林散策、草木クラフトを体験して3日目にまとめをする2泊3日の日程です。

一方、受け入れ側の塾関係者は首都圏から7人、地元インストラクター9人、計16人が二人一組で1グループ14人~20人を受け持ちます。

地元インストラクター6名と首都圏インストラクター7名は、前日、青木沢集落~芦の田峠~平出集落の森林散策路のインストラクションポイントや危険箇所等を把握のため下見を行いました。

この後、首都圏インストラクターとIターンのIさんは、草木クラフトの茅編み材料となる茅をスグリ、切断して束にする作業を行いました。この作業が意外と大変で夜なべも覚悟しましたが何とか夕食までには終わりこれで準備は整いました。

当日は、やはり梅雨空、降雨も



覚悟しなければならぬような天気の中、9時の対面式後、草木クラフト、森林散策、草原散策、雲越家住宅、諏訪神社見学とそれぞれのグループごとに最初の課題から取り組み、全行程を終了したのは16時、この間、小雨程度の降雨はあったものの事故もなく無事に終了しました。

以下、私が担当したA組2班、5号車組のフィールドワークの様子です。



このグループが最初に取り組んだのは草木クラフトです。これは、岡田さんのアイデアと経験からプログラムに採用されたもので、

去年は4種類のメニューでしたが、今年は、ススキのミニすだれを作る「茅編み」と木の葉をアクリル絵の具でエコバックに染める「木の葉の模様染」です。茅編みの生徒たちは「習字の筆巻き」にするといいと真剣に取り組む、出来栄もよく、木の葉の模様染の生徒はメグスリノキ、コハウチワカエデ、シダなどデザインを考えながら取り組み、世界に一つだけしかないマイバックが出来上がりました。

その後、バス移動で雲越家住宅を見学、茅屋根の特徴や雲越仙太郎さんの自給自足の暮らしぶりの説明を聞きましたが生徒たちには囲炉裏から上がる煙が目にも染みたとようです。

このあとの上ノ原草原では、ヤマウルシや蜂などについて注



意を受けたあと、樹木や草原に住む動物や昆虫の話聞きながら散策、ここでは小雨が降りましたが濡れることもなく約1時間の散策で草原の生物が豊富であることや草原を維持するための野焼きや茅刈作業について説明しました。

昼食後の諏訪神社は、時間の都合でバスの中から見て、屋根に使われている茅が上ノ原産であること、夏のお祭りは獅子舞神楽の奉納で賑わうことなどの説明になりました。

森林散策は、木沢集落を出発、集落、森林、畑がある風景の中で「森林のいろいろな働き」の説明を受けたあと武尊川に向かって散策をはじめました。途中、オニグルミの実がなっている姿を見て、落ちた殻からわかる二ホンリスやアカネズミの食べ方の違いのなどを解説しました。

水量も多く流れる武尊川に架かっている橋が少し傾いていたことから用心しながら一人ずつ渡り、その緊張が残っている間に、



森に降った雨の行方、森林の水源涵養機能の説明をしました。



芦の田峠に向かう間は、あたらしい伐採・植林地があって林業のことを説明する絶好の場所です。伐採は悪いことでなく、適正に計画的に伐採して木材を利用し、また植林する循環が大事なことにふれました。

芦の田峠の道祖神の前で、しばし休憩を取り、この間、尾島さんによる「森林は大気を守る」と題して「地球温暖化と森林」について約25分の緑陰講座が行われました。

生徒たちにはすべてを理解することは無理かもしれませんが、今、世界的な問題でもあり自分たちの暮らしぶりに直結し、ニュースなどで頻繁に見聞きする話題として地球温暖化問題と森林の二酸化炭素吸収固定機能について解説しました。ここでは、その原動力である光合成をおこなっている実物の森林を見ながら聞くことの効果を考えて少し長く時間をとりました。

ここからの道は下り坂、足が早まりますが、途中には、森林土壌を学ぶには絶好のブナ林があります。前日仕掛けた紙コップの土壌生物トラップは残念ながらかかっていませんでした。このトラップは工夫の余地があるよう



です。ここでは、森林土壌の状態、色や手触り、においをかがせてキャンパスの林との違いと土壌動物の話や森林土壌の特徴が水源涵養機能を高めていることを説明しました。

途中にあるフジツルのブランコに乗り、炭窯、カラマツ・スギの人工林を見ながら平出集落に到着です。この間、2時間、ゴールに着きでホッとしたところで最後に、森林や草原で何を見たかを生徒たちに聞き、それぞれがあげたものを生産者、消費者(一次・二次)、分解者に分け、森林の動植物が豊かで、それぞれがつながって森林生態系を作っていることを説明してプログラムを締めくくりました。



今年の生徒は、問いかけによく答えていましたが、全体的に声が小さい、もっと元気を出してほしいものです。また、一部の女子生徒と男子生徒4人はいつも固まって行動していましたが後ろのほうで聞いていることが多く、積極性が感じられなかったのは残念です。

麗澤学園中学の「自分プロジェクト」は、
・大きな志を以て真理を探究し、高い品格と深い英知を備えた人物
・自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物
・自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物

の人物像を目指し、1年生から3年間を通した学習プログラムで、

- ・1年生は「自分と自然の関係を学ぶ、(樹木や森に学ぶ)」
- ・2年生は「自分と国家の関係を学ぶ(熊野、伊勢、奈良、京都などを訪ねる)」
- ・3年生は「自分と世界の関係を学ぶ(英国、ニュージーランドなど海外訪問)」となっています。

生徒たち(子供たち)は未来からの留学生です。彼らの未来での存分の活躍を願って、塾としても、キャンパスでの樹木観察会とFWのプログラムに改良を加えながら対応しています。

対応いただいた地元および首都圏のインストラクターの皆さんに感謝申し上げます。

■第2回東京楽習会 「水の化学—おいしい水とは？」開催報告 稲 貴夫

本年度第2回目の東京楽習会は、山本誠次郎会員を講師に8月22日の土曜日、渋谷区氷川区民館で開催し、会員および関係者12名が参加しました。

山本講師は大学時代に応用化学を学ばれ、卒業後は大手企業で高分子材料の研究開発などに従事されてきましたが、退職後は「水」の不思議さに魅せられ、現在もその探求を続けられています。

今回の楽習会は山本会員のお話を中心に、参加者の一人である山本会員の大学時代からの友人であるFさんより、世界の水事情についての解説をいただいたり、また清水顧問からは、十郎太沢の流れる藤原・上ノ原の地理や地質についての説明を交えながら、水とは切り離すことのできない「酒」へと、自然に話題が展開しながらの楽しい楽習会となりました。その内容を担当者の感想も交えながら、以下の通り報告します。



○十郎太の水はなぜ美味しいか？

おいしい水の条件については、水温やPH、蒸発残留物や硬度など、さまざまな数値が示されていますが、「これだ」という絶対条件はないようです。また、普段飲んでいる水が一番美味しく感じるということも言われますし、おいしい清流の水でも、酒造りに適したり適さなかったりするようです。また、寝かせたウイスキーが美味しくなるのは、水分子のクラスター構造が関係しているという説もあるとのことでした。

十郎太の水がなぜ美味しいか、確定的なことは言えないというのが結論でしたが、とにかく美味しいことは紛れもない事実。それは、いつもいい汗をかいた後に感謝を込めていただいているからかもしれませんね！

○水ことばと水五訓、水五徳

日本語には「水」を使った比喻や諺、格言が沢山ありますが、それを資料に纏めてくださいました。本当に沢山あるので水も漏らさぬようにすべてを網羅することは不可能でしょうが、難しいことは水に流して、皆さんも調べてみてはいかがでしょうか。

○水と二酸化炭素

水は人間が生きられる通常自然環境の中で、気体・液体・個体とすべての状態をみることができ唯一の物質であることを、二酸化炭素と比較しながらお話し下さいました。二酸化炭素は通常気体で存在し、その個体であるドライアイスも人工的につくられます。そして液体の二酸化炭素も人工的につくることができますが、液体



であるための圧力と温度の条件が厳しく、普通の自然環境の中では存在できないとのことでした。

また、摂

氏4度で最も比重が重くなることから、水中に魚などの生物が棲める環境が維持されているとのこと。こんな不思議な水が地球に大量に存在することによって、生命の多様性が維持されているのです。

○地球の水循環

地球に存在する水の96.5パーセントは海水で、その量は実に1,338,000,000km³。1km³は10億トンですから、トンに直すと、億や兆の単位をはるかに超えて、134京トンになります。ただしそれは海水の量で、次に多いのが氷河・氷床の2400万km³(1.74パーセント)、次が塩水地下水1300万km³(0.93パーセント)、次が淡水地下水1000万km³(0.76パーセント)。ですから地表に存在する淡水の量は、全体から見ればほんの僅かにすぎません。それにアメリカ大陸中央部にあるオガララ帯水層と呼ばれる巨大な地下水の量も農業用灌漑用水の大量くみ上げで減少しているそうです。その組み上げられた水がアメリカの輸出用穀物となり、私たちの口に入っていることを考えると、水を大切にすることというのは、私たちの暮らし全体を考えるということなのでしょう。

■藤原現地報告

北山 郁人

7月15日

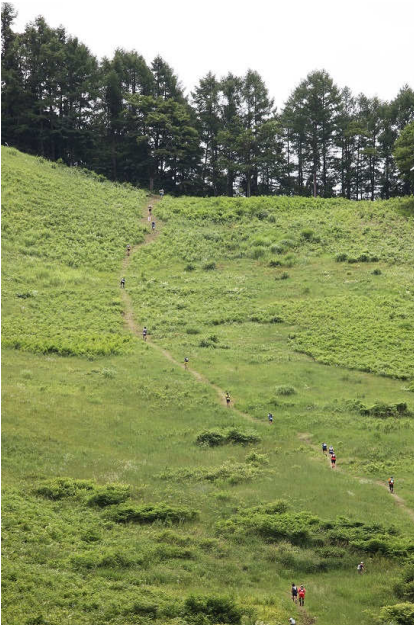
毎年、朝日岳山頂付近の木道の脇に、登山者が踏み込んで植生を壊さないようにするため、ロープを張っています。7月の梅雨の合間をみて実施しました。ニッコウキスゲや高山植物がたくさん咲き誇り、地上の楽園のような風景です。藤原の宝の一つです。ね。



7月19日

第2回上州武尊スカイビュートレイル大会が開催されました。





昨年は9月に開催されましたが、今年は7月19日に実施されました。宝台樹スキー場をスタートした60キロコースは、日程を変更したためか、昨年よりも少ない134名が出走しました。また、日本でも最も過酷なコースになる120キロコースには、498名もの選手が出走しました。

完走率は、52%でしたが、1位の選

手は、なんと15時間47分で120キロを駆け抜けてゴールしました。女性の1位の選手も、22時間53分でゴールしています。世の中には、超人的な体力を持った方がたくさんいるものですね。

7月26日

利根川源流祭りが開催されました！

全国で記録的猛暑…となった7月26日(日)に、ならまた湖からの心地よい風が吹き抜ける中、オートキャンパーズエリアならまたにて開催されました。ダム



の内部見学、巡視船体験、カヌー、バギー、マスのつかみ取り、新聞バックワークショップなど楽しい体験イベントがたくさん行なわれました。

ステージイベントでは、利根川源流賛歌やテリー齋藤さんのコンサートなどが行なわれ、最後には恒例の餅撒きも行なわれました。天候にも恵まれたたくさんのお客さんに楽しんでいただく事ができました。



7月23、27、31日

江戸川区の中学校が林間学校で藤原にやってきました。

7月末に、江戸川区の東葛西、篠崎、南葛西第2という中学校3校がそれぞれ、1泊



ずつ藤原を中心にホームステイをしながら農作業体験や自然体験に訪れました。

1軒当たり4~6名で分宿し、それぞれの家庭のお手伝いをしながら、藤原の方々と交流を深めました。少人数で分宿するので、都会とは違う藤原の田舎の暮らしを体験でき、生徒にもいい思い出となります。また、家族や友人と藤原を訪れてくれるといいですね。



8月1日

北山家にホームステイに来た江戸川区の中学生にも手伝ってもらい、古民家の片付けと整備を行



ないました。台所の廃材を片付け、砂利を敷き、モルタルを打ってタイルを敷きました。あとは流しを設置すれば、とり



あえず使用できるようにになります。ここまで3年かかりましたがやっと先が見えてきました。

8月28日

第58回目の藤原湖マラソン大会が、1900名もの参加者を迎え無事に開催されました。58年前に藤原ダムが完成し、150数戸の家が湖底に沈んでしまいました。その湖底のふるさとを思い始まったのが、このマラソン大会です。開会式では、第一回目を開催した当時の青年団だった地元の古老と藤原小中学生がステージで紹介されました。



■藤原の“ほっと”ショット・コーナー⑩
中村 智子

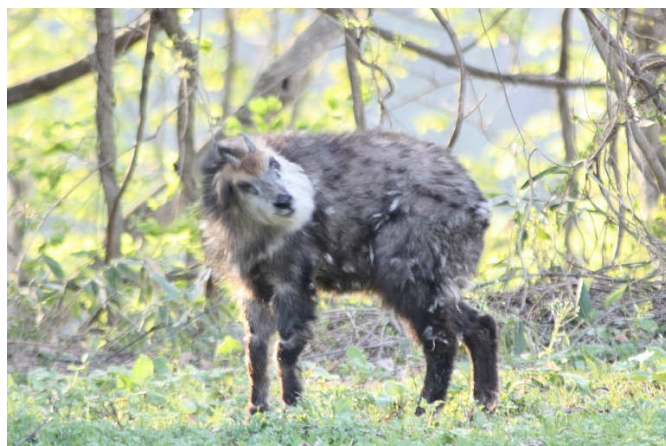
地元・中村智子さんの、見てほっとする“photo”ショット・コーナー。今号は自宅周辺の身近で貴重な動植物を編集していただきました。(編集子)



わさびの葉の上でトンボが羽化した。(2010・5・30)



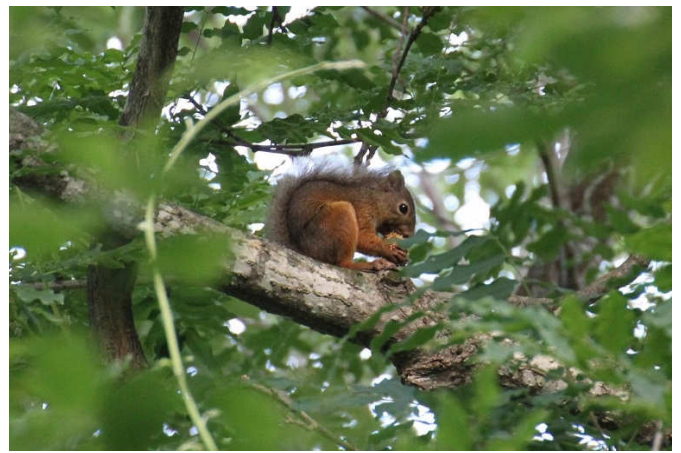
桜にモリアオガエルが卵を産み付けた。(2010・6・28)



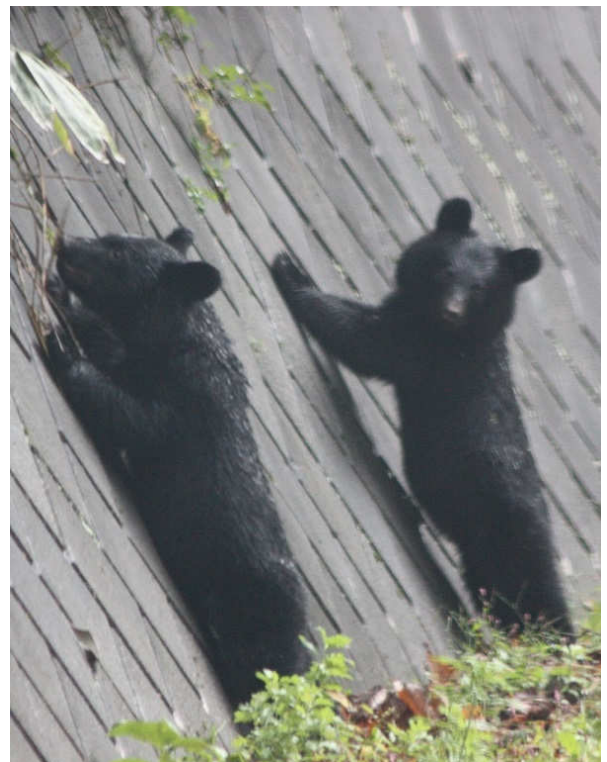
冬毛から夏毛に抜け換え中のニホンカモシカ。
(2012・5・16)



スタンドの天井で燕が子育てしていた。(2012・6・24)



食事中の夏毛のニホンリス(2015・7・29)



おとなしい動物ですが、親子は、要注意！この後、土手の上から親熊が飛び出してきた。(2012・10・3)

■野守のつぶやき(5) 春から夏へ、森里川海 清水 英毅

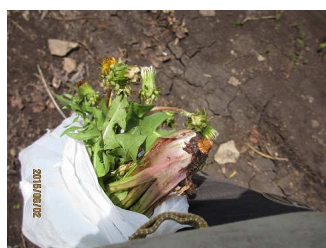
●鳥見仲間の心得？ 野焼から5週間経過した6月1日。上ノ原の様子見かたがた、埼玉県みどりのトラスト⑦号地の“鳥見仲間”7人をご案内して藤原へ。山口→上ノ原→宝台樹キャンプ場と3時間ほどで、ウグイス、ホオジロ、サンショウクイ、コサメビタキ、コゲラなど15種ほど観察。どなたも、鳴声だけで種名を識別される！

最初に行った「吉野屋」さんの裏の物置小屋で、陶器内に作られたサンショウクイの巣を発見。「え、こんな所に！」と驚きしげしげ覗き込んでいたら、「いつまでも見ていたらダメ。親鳥が嫌がって営巣放棄してしまいます」とのご指導。これ、鳥見仲間の心得の由。人間の世界も同じ、と納得。



●野守のお勤め 翌、6月2日。お握り担いで単騎、上ノ原へ。草原は全面ほぼ緑一色だったが、野焼きの成果はありあり。火入れをした管理道からは緑の色も密度も濃く草丈も高い。ワラビの生育ぶりも、管理道の上下では明らかに違っていた。

十二神様にお賽銭が！水守の像には以前からあったが、こちらはちょっと嬉しい出来事。周りの森ではエゾハルゼミの大合唱。野鳥たちの囀りも聴き取りにくいほど。ワラビ狩りの人も車も数あまた。おまけに、水汲みの車も来て賑やかなこと！



賑やかはいいいけど、ゴミ拾いは悲しい。午前中だけで、腰のビニール袋に2杯分も！空き瓶・缶・ペットボトルに煙草の吸い殻、使用後のティッシュペーパー、始末に悪い缶類のタグ。休憩は一向かまわないけど、後始末はちゃんとしてほしい(悲) 日本のオジサンオバサンたちのマナーどうなっちゃっているの？「とっていいのは写真だけ、残しているのは足跡だけ」です(怒)

今年も、ニセアカシア退治に一汗。計5本、うち2本は管理道兼防火帯から5mも広場よりに侵入。去年までは4mどまりだったのに。全部、ノコギリで地際ギリギリに切り倒して管理道に並べる。見せしめじゃなくて、学習教材のつもり。



実は、セイウタンボがも既に炭窯広場まで進軍済み。



●水源の森の金剛力士！

6月14日、6月度プログラムの二日目。林野庁の「水源の森」探訪。写真は、そのブナ純林で出会った“金剛力士”。樹齢百余年？大自然が生んだ超一級芸術作品。

●ガキ大将は頼もしい助っ人 7月12日、7月度プログラムの二日目。いつものゴミ拾いと十二神様、水守像のお世話の後、草木塔のしめ縄掛けと木馬道の新ルート開拓をやりかけたら、手がすいた若者たちが加勢に来てくれた。しめ縄代わりにする巻をして差し上げた草木塔前で、日頃の感謝の念をこめ記念撮影。



お陰で開削が進んだ木馬道奥に巨石が鎮座していた。盤上、一汗かいてご満悦の星見さん。「お山の大将！」と冷やかすと「いえ、ただのガキ大将です」と(笑)

●野守、三番瀬へ

8月22日、BPA主催サンセットクルージング。会員・会友諸兄25名と参加。利根川上流交流の一端。「日は沈み、また昇る」



●利根川流域圏支援ネットワークの構築 これ、日本自然保護協会の2015年度を含む3か年事業計画の柱の一つ。これにより、「都市から地方、山川里海、地方創生といった様々な機運に対応できる民間レベルでの支援や自然保護の流れを生み出す」としている。そして、今年度の重点事業の一つが「みなかみ町のユネスコエコパーク登録」支援。いよいよ、我々の出番近し！

2015年8月(青)

～編集後記～

『茅風通信』第46号をお届けします。

今年の夏は猛暑で始まりましたが、後半は不順な天候が続き「野菜が高くて大変」と、台所から溜息が聞こえます。何れにせよ、天気ばかりはコントロール出来ません。ただ、近年の大都市周辺の激暑は、大地をアスファルトやコンクリートで覆って水の循環を断ち切り、その上で様々な浪費を重ねていることが原因でしょう。上ノ原で活動しながら、そんなことを考えるようになりました。

前号で予告しました「協賛団体の紹介」は、次号から掲載します。よろしくお願ひします。(編集子)